

## 地域の安全を守り続けて47年 東北防犯功労者表彰に輝く

本年度の東北管区警察局長と東北防犯協会連絡協議会長の連名による防犯功労者表彰に、菊池茂勝さん(65)が早瀬町Ⅱが選ばれ、7月10日、市役所で伝達式が行われました。同表彰は地域の防犯活動に率先して取り組み、他の模範として認められる人に贈られるもので、県内では菊池さん

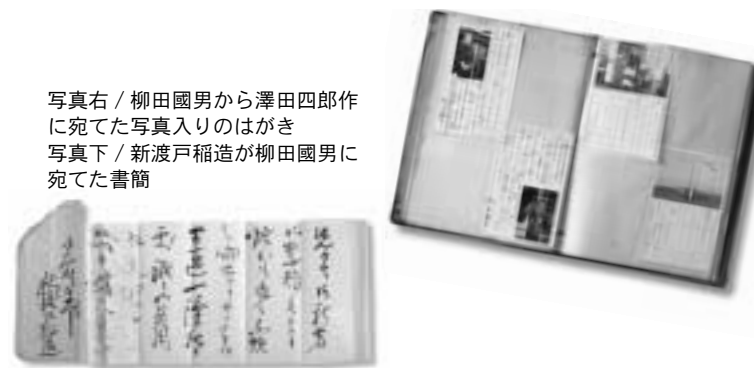
を含めて8人が受賞しました。昭和37年から防犯協会員として活動する菊池さんはこれまで、児童生徒の登下校時の見守りや防犯思想の普及などに積極的に取り組んできました。昨年5月からは、市防犯協会連合会副会長を務め、安心安全なまちづくりに貢献。これら47年間の活動が認めら



受賞を喜ぶ菊池茂勝さん

れ、今回の受賞となりました。菊池さんは「地域の皆さんの協力のおかげです。これからも地域の安心安全のために頑張りたい」と決意を新たにしていました。

## 柳田國男の貴重な資料を入手 新装する博物館展示に活用



写真右 / 柳田國男から澤田四郎作に宛てた写真入りのはがき  
写真下 / 新渡戸稲造が柳田國男に宛てた書簡

市は「遠野物語」の著者、柳田國男の書簡や直筆原稿など263点を入手しました。資料は柳田と親交の深かった民俗学者、澤田四郎作(1899〜1971)が収集していたもので、兵庫県在住の長男昭さんから譲り受けました。四郎作は柳田の勧めで「大阪民俗談話会」を発足させ、会長に就任したほか、「近畿民俗学会」の会長を務めた人物。柳田が四郎作に宛てたはがき120点は、「定本 柳田國男集 別巻第四」

書簡編にも所収されていない未発表資料。このほか、本県ゆかりの新渡戸稲造や金田一京助らが柳田に宛てた書簡、「遠野物語」や「後狩詞記」の初版本など、柳田の幅広い交流や研究内容を知ることが出来る貴重な資料ばかりです。これらの資料は今後整理を進め、来年4月下旬にリニューアルオープンする市立博物館の目玉として展示するほか、2012年の柳田没後50年に合わせた展覧会などにも活用する予定です。

## 郷土の魅力を話す語り部育成 遠野ならではのまちづくり

市が提案していた「語り部1000人プロジェクト」語り部でにぎわう、まちづくりが、内閣府の「地方の元気再生事業」に選定されました。遠野を訪れた観光客などに、遠野の歴史にちなんだあらゆる分野の解説ができる語り部の育成を目指します。

同プロジェクトは、昔話のほか、食、郷土芸能、歴史、生業の五つの分野の語り部を育成するもので、商工会や観光協会、商業組合、青年会議所などで構成する中心市街地活性化協議会が取り組みます。10月からは遠野テレビを活用した「語り部放送大学」が放送され、その後、五つの分野の語り部を募集します。来年1月には認定式を行い、その後開催するモニターツアーで語り部として活躍してもらう予定です。



あらゆる分野の語り部の発掘・育成を目指す(写真は毎年2月に開催される昔ばなしまつり)

画」で進めるハード事業と、本プロジェクトによるソフト事業との一体的な取り組みで、遠野ならではのまちづくりを進めます。

## 宝くじ助成を活用し 地域づくり活動推進

青笹町地域づくり連絡協議会(西田皓悦会長)は、自治総合センターの宝くじ助成を活用して、イベント用テント、ワイヤレスアンプ・マイク、ハンド型メガホン、プロジェクターおよびスクリーン、デジタルカメラなど全23点を整備しました。

これらの設備は青笹地区センターに設置・保管され、地域のコミュニティ活動や生涯学習などに活用されます。持ち運びが可能な機材は貸し出しも行う予定で、さらなる地域活動の推進や交流が期待されます。

ワイヤレスアンプとマイク(右)、プロジェクター(左)、ハンド型メガホン(下)

宝くじは豊かさ築くチカラ持ち。



調印後、握手を交わす佐藤社長(左)と本田市市長

市と北日本JA畜産(佐藤忠社長)は7月21日、養豚施設建設と公害防止に関する協定を締結しました。サンパークやなぎで行われた調印式には、関係者ら30人が出席。齊藤吉則北日本くみあい飼料社長、杉村隆司岩手畜産流通センター社長、小林英男全農県本部長の立会いの下、本田敏秋市長と佐藤社長が協定書に調印し、事業の開始を喜び合いました。協定には、地域雇用の創出や地域産業の発展などに関する役割と責任のほか、地域住民の健康保護や生活環境保全に対する責任と、公害の未然防止などが定められています。

本田市市長は「農業を取り巻く情勢が厳しい中、遠野の地域性を生かした耕畜連携の新たなプロジェクト。地域経済の活性化と一次産業振興の成功事例となるよう積極的に支援したい」と、佐藤社長は「地域の農業活性化につながるよう、公害防止協定の趣旨を十分踏まえて農場を運営していきたい」と、それぞれ決意を述べました。同社は、附馬牛町大洞地区に13・8畝の基幹繁殖農場を建設。母豚1200頭を飼育し、年間2万7800頭の子豚の生産を目指します。また、農場外に養豚汚水が流れない「無排水システム」など最新鋭の設備で環境へも配慮します。土淵町飯豊地区と花巻市横志田地区には、子豚の肥育施設を建設。同施設で肉豚に仕上げ、生産から加工販売までの「一貫生産事業方式」で農業生産額の拡大を図ります。繁殖農場は年度内の稼働を、肥育農場は来年夏以降の出荷を目指し、それぞれ工事が進められる予定です。

## 耕畜連携の新たな事業が始動 大規模養豚施設の協定締結

## エフエム岩手「遠野物語100年 昔あったずもな」が奨励賞

エフエム岩手(村田憲正社長)のラジオ番組「遠野物語100年 昔あったずもな」は、全国FM放送協議会(会長・後藤巨エフエム東京取締役、略称JFN)のJFN賞2009企画部門奨励賞に選ばれました。

同賞は放送活動の活性化や質的向上に貢献した作品に贈られるもので、JFN加盟38局のうち、企画部門には27局から48件の応募がありました。

同番組は、来年で発刊100周年を迎える『遠野物語』を題材に、毎週日曜日午前9時40分から15分間の放送。フリーアナウンサーの畑中美耶子さんが物語の一部を朗読し、元岩手県立博物館館長の金野静一さんが物語の意味するものを引き出していきます。

7月24日、受賞の報告に市役所を訪れた村田社長は「遠野物語は、岩手の誇る宝です。今後も全国への情報発信のお手伝いをしていきたい」と話し、来年行われる記念事業などへの協力を約束しました。



賞状などを手に受賞を喜ぶ村田憲正社長(右)と本田敏秋市長

## 乾しいたけ県品評会で 市内生産者の健闘光る

第43回県乾しいたけ品評会は6月16日、イオンモール盛岡で開かれ、県内各地から出品された463品の中から、市内の生産者6人が入賞しました。

結果は次のとおり(敬称略)。

### ■天白どんこの部

奨励賞=多田和郎(宮守町鱒沢)、菊池英雄(同町宮守)

### ■こうこの部

1等賞=多田美枝子(宮守町鱒沢)

※多田さんは特別賞の県森林組合連合会会長賞も受賞

### ■こうしんの部

3等賞=菊池ケイ子(宮守町宮守)

奨励賞=琴畑熊吉(土淵町)、藤田栄(附馬牛町)

※入賞した多田和郎さん、菊池英雄さん、多田美枝子さん、菊池ケイ子さんの作品は、静岡県で開かれる全国椎茸品評会に出品されます。